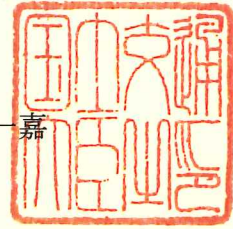


認定書

国住指第 2662 号
令和 2 年 1 月 8 日

未来工業株式会社
代表取締役社長 山田 雅裕 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060WL-1098
2. 認定をした構造方法等の名称
硬質ポリ塩化ビニル管／表面材付膨張黒鉛混入ゴムシート・シリコーン系
シーリング材充てん／壁準耐火構造／貫通部分
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

硬質ポリ塩化ビニル管／表面材付膨張黒鉛混入ゴムシート・シリコーン系シーリング材充てん／壁準
耐火構造／貫通部分

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開 口 部	形 状	円形(φ174mm以下)
	面 積	0.0238m ² 以下
占積率 (開口面積に対する配管の断面積の割合)		84.6%以下
配管と躯体との隙間寸法 (クリアランス)		5～30mm
貫通する壁の構造等		建築基準法施行令第 112 条第 2 項に掲げる基準に適合する壁構造 (60 分) 又は建築基準法第 2 条第七号の規定に基づく壁構造 (60 分) 厚さ 100mm 以上 (ALC パネル、鉄筋コンクリート造含む)

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表2に、配管の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項目		仕様		
耐火テープ	材料	表面材付膨張黒鉛混入ゴムシート		
	寸法	幅：45(-2.0)mm以上 長さ：管の周長以上 厚さ：3.0(-0.3)mm以上 ※表面材の幅は、基材の左右端部より5mm以下まで伸ばしてもよい		
	用途	壁の両側の配管貫通部に巻き付け (基材は埋設長さ25mm以上)		
	表面材	材料	仕様：あり(両面又は片面)又はなし 種類：①～⑫の一 ①ポリオレフィン系樹脂 ②ポリウレタン系樹脂 ③ポリスチレン系樹脂 ④フェノール系樹脂 ⑤塩化ビニル系樹脂 ⑥アクリル系樹脂 ⑦ナイロン系樹脂 ⑧フッ素系樹脂 ⑨シリコーン系樹脂 ⑩合成ゴム系 ⑪紙 ⑫布	
		厚さ	0.02(+0.02)mm以下	
	基材	材料	膨張黒鉛混入ゴムシート	
		形状	パテ状	
		密度	1.25(±0.3)g/cm ³	
		組成(質量%)		
		厚さ	3.0(-0.3)mm以上	
充てん材	材料	シリコーン系シーリング材(JIS A 5758)		
	使用箇所(使用量)	壁と耐火テープとの隙間又は壁と耐火テープ及び配管との隙間 (壁の両側から奥行き25mm以上密に充てん)		

表3 配管の仕様

項目	仕様				
配管	硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741, JIS K 6742, JIS K 6776 (記号VU, VP, HIVP, HT)) (外径及び厚さ以外は、JISに規定された要求性能を 満足するもの)	外径	φ114.0mm以下 (ただし、記号VUについて は、φ89.0mm以下とする)	厚さ	7.1mm以下

4. 副構成材料の仕様：
副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

項目	仕様	
施工用テープ	材料	仕様：あり又はなし 種類：①～④の一(粘着材付) ①樹脂系テープ (ポリエチレン系、ポリオレフィン系、ポリウレタン系、ポリスチレン系、フェノール系、塩化ビニル系、アクリル系、ナイロン系、フッ素系、シリコン系、合成ゴム系) ②紙系テープ ③布系テープ ④不燃テープ (アルミニウム箔、ガラスクロス、アルミニウム箔貼ガラスクロス)
	寸法	材料①～③の場合 厚さ0.13(+0.13)mm以下
	用途	(1) 耐火テープ同士の留付用 (2) バックアップ材同士の留付用 (3) バックアップ材と配管、耐火テープとの留付用 (4) 配管と耐火テープとの留付用
バックアップ材	材料	仕様：あり又はなし 種類：①～⑬の一(片面粘着材付(あり又はなし)) ①ポリエチレン系フォーム ②ポリオレフィン系フォーム ③ポリウレタン系フォーム ④ポリスチレン系フォーム ⑤フェノール系フォーム ⑥塩化ビニル系フォーム ⑦アクリル系フォーム ⑧ナイロン系フォーム ⑨フッ素系フォーム ⑩シリコン系フォーム ⑪合成ゴム系フォーム ⑫グラスウール(JIS A 9504) ⑬ロックウール(JIS A 9504)
	密度	材料①～⑪の場合 30(±10)kg/m ³ 以下
	用途	充てん材の受け材

単位 mm

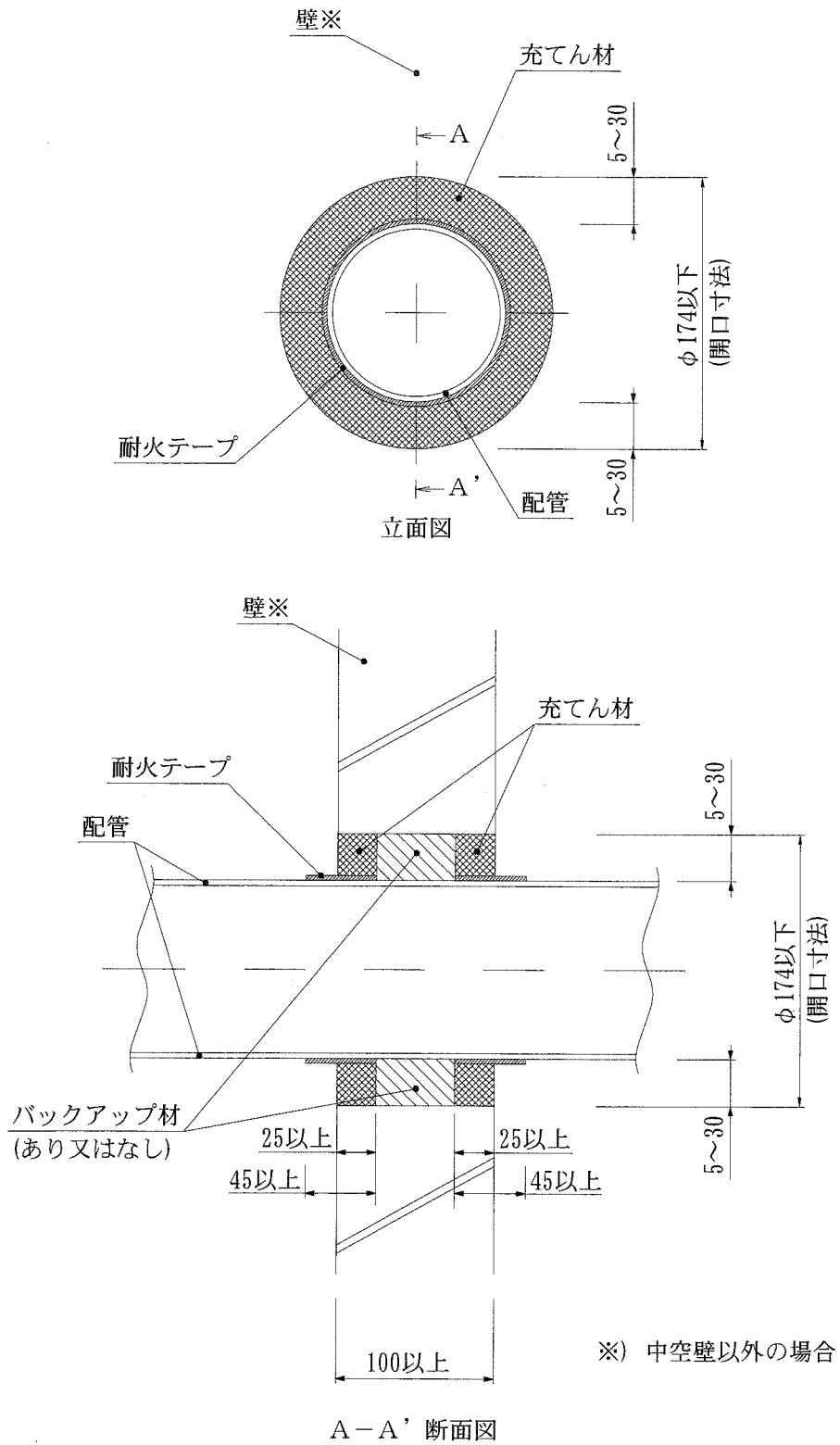


図2 構造説明図(施工図)

6. 施工方法：

施工は、以下の手順で行う。

- (1) 壁の開口
壁に応じて、ホルソー又はボイド又はコアドリル等の工具を使用し開口を設ける。
- (2) 配管の通管
開口に配管を施工する。
- (3) 耐火テープの巻き付け
耐火テープを埋設長さ25mm以上になるよう隙間がないように壁の両側から配管に巻き付ける。
この時、耐火テープは突き合わせ又はオーバーラップさせて施工してもよい。
なお、施工に際しては、耐火テープの表面材が配管側に貼り付けてある場合、配管に沿わせて耐火テープを所定の位置にスライドさせてもよい。
- (4) 施工用テープの使用(あり又はなし)
必要に応じて耐火テープ同士の留付用、バックアップ材同士の留付用、バックアップ材と配管、耐火テープとの留付用、配管と耐火テープとの留付用等に施工用テープを施工する。
- (5) バックアップ材の取付け(あり又はなし)
必要に応じて、充てん材受け用にバックアップ材を取付ける。
- (6) 充てん材の埋め戻し
充てん材(シリコーンシーリング材)を開口部の隙間に埋め戻す。